正しく知って、予防しよう！梅毒ってこんな病気

梅毒に感染した場合における症状の経過

感染

梅毒トレポネーマという細菌が、
性的な接触により感染。
ごくまれに、皮膚や粘膜の傷から感染することがあります。



梅毒トレポネーマの電子顕微鏡像
（国立感染症研究所感染症情報センターHPより抜粋）

3～6週間

早期Ⅰ期

菌が入った所に
硬いしこり（初期硬結）
ができます。

- 次第に中央がえぐれて潰瘍（硬性下疳）になります。
- 通常1個ですが複数できることもあります。
- 足の付け根や首のリンパが腫れることがあります。
- 放置しても2～3週間で消えますが、病気は進行しています。

感染から4～10週間

早期Ⅱ期

手や腕、足の裏、体に
赤い発疹（バラ疹）
ができます。

- 発疹は数週～半年であとを残さずに消えますが、病気は進行します。
- 風邪のような症状や、性器周辺にいぼ状のものができたり、口の中の粘膜に斑状のものができたりと、いろんな症状があらわれます。



←梅毒疹（バラ疹）
（ACC「HIV感染症とその合併症診断と治療ハンドブック」より抜粋）

Ⅱ期の症状が消失するころから

潜伏梅毒

一見、体調の良い時期が続きますが、
全身で炎症が進行
します。

- 無治療の場合、約1/3が晩期へ進みます。

感染から数年～数十年

晩期

一見、体調の良い時期が続きますが、
心臓や脳に障害が起こり、
日常生活が営めなくなります。

- 皮膚や内臓に、ゴム腫と呼ばれる硬いしこりができます。
- 失明や、認知症のような症状が出ることもあります。

どんな検査をするの？

採血をして、2種類の抗体を調べます。
感染の約4週間後から、検査でわかるようになります。

治療は？

抗生物質による治療です。症状があるときは早めに、皮膚科、泌尿器科、性病科、婦人科などを受診してください。**再感染**を防ぐため、**パートナーと一緒に**完全に治療をすることが大切です。

予防法は？

感染している人との性的接触を避けることが基本です。特に**Ⅰ期とⅡ期は感染力が強い**ので注意が必要です。コンドームの適切な使用は、感染のリスクを減らすことができます。

参考文献　1）国立感染症研究所 感染症情報センター「 梅毒とは」　2）東京法規出版 「性感染症を防ごう」　3）㈱ヴィーブヘルスケア 「男子のためのSTDハンドブック Male STDs:Action Guide」 西日本版
4）厚生労働省科学研究費補助金・エイズ対策政策研究事業 「HIV検査受検勧奨に関する研究」研究班「もしかしてわたしも…梅毒！?」

© 2017.7 Y.H kansenshoutaisaku City Kumamoto